

法人概要

学童保育所 Anchor 設立
対象者: 小学生 約100名

2015年～現在

共働き世帯の小学生を放課後のもうひとつの家として預かる事業。その中でも、より困難な状況抱えた家庭を受け入れることを方針とし現在100人の登録児童の約4人に1人、20人の支援対象者（単親家庭）が在籍する。『学童保育』という日本のどこの地域にもある身近な公的事業を起点とした家庭支援を柱に、孤独にさせない仕組みづくりに向けて活動中。



2016年～現在

学習生活支援事業 Paddle
対象者: 中学生 26名



自主事業として、小学校を卒業した困難家庭の中学生を中心にスタート。その後2019年に行政のモデル事業として海老名市より正式事業として受託 生活困窮家庭内における生徒26名に対し大学生と協働し事業を実施中。子ども達の中にはヤングケアラーや不登校生徒も複数在籍し、家庭の背景を含め、ケースはより複雑化している為、食支援を柱に居場所の充実を図る。生きる力は決して学校の勉強だけでなく、むしろ社会の中にあると考え、子ども達自身がより多くの人との出会いと経験の場になることを目標とする。
（この事業のみ、もうひとつの一般社団法人LIGHTHOUSEで運営中。）

2022年～2024年現在

第3の子どもの居場所事業 よりみてい
対象者: 子どもを中心とした地域住民

現役の高校生・大学生と共に商店街を中心にコミュニティの場をつくる。その象徴として、地元バス会社より引退するバスを無償で譲り受け、地元企業・住民と共にバスをリノベーションし、多世代の居場所づくりを開始。平日や土日に駄菓子屋としても活用。地域の子供達のための新たな居場所でもあり要支援児童の早期発見に繋がることにより、地域で子どもを見守る仕組みを構築中。



海老名櫛ロータリークラブ

日本の食品ロスは2020年度で約522万トンに達しており、そのうち275万トンが事業系、247万トンが家庭系からのものです。この問題は年々増加しています。一方で、生活が困難な世帯への食糧支援が重要な社会的課題となっており、全国でもこども食堂やフードバンクの活動が広がっています。この背景を受け、私たちのプロジェクトは冷蔵庫を使用して、「廃棄されそうな食品」と「それを必要とする人々」を繋ぐことを目的としています。具体的には、地元の事業者や農家から食品ロスになりそうな商品を集めて冷蔵庫で保管し、利用者はこれらの食品を自由に受け取ることができます。「よりみち」スタイルで、食品は誰でも気軽に利用可能です。提供者は時間を気にせず、利用者は精神的な負担なく、食品を受け取ることができます。海老名櫛ロータリークラブはこのプロジェクトにおいて、冷蔵庫の設置と地元の事業者や農家からの協力を求めています。廃棄されそうな食品を集め、この冷蔵庫を通じて地域の必要とする人々に届けることを目指しています。



よりみち



よりみち×コミュニティ
よりみてい

特定非営利活動法人Compass

supported by 櫛ロータリークラブ

